

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 28 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2010～2014

課題番号：22401030

研究課題名(和文) 自治領時代カナダの国家アイデンティティ形成における日本人移民、1867 - 1914

研究課題名(英文) Japanese Immigration in the Formation of State Identity in the Dominion of Canada, 1867-1914

研究代表者

SAVELIEV IGOR (SAVELIEV, IGOR)

名古屋大学・国際開発研究科・准教授

研究者番号：60313491

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本、イギリス、カナダと米国の公文書館などにおいて収集した史料に基づいて、1)1907年の日英関係変容の文脈でブリティッシュ・コロンビアへの日本人移民制限をめぐる交渉のそれぞれのアクター(BC州政府、カナダ政府、イギリスの植民地省と外務省、日本政府)の役割を再検討し、2)日本人移民問題のBC州及び自治領カナダの地域アイデンティティ形成への影響を検討し、3)カナダ特使ルミューの日本への派遣をめぐる日本外務省、カナダ政府と大英植民地省と外務省の交渉過程を問い直し、ルミュー特使の派遣の意義を再検討し、4)1907～8年の日本人移民制限をめぐる日加英米外交交渉の交渉過程を再検討した。

研究成果の概要(英文)：Basing on primary sources collected in British, Canadian and American archives, the present research 1)reconsidered the role of various actors (BC government, Canadian government, British Colonial and Foreign Offices, Japanese government) in the negotiations regarding the restriction of Japanese immigration into British Columbia in the context of the transformation of Anglo-Japanese relations in 1907; 2)reconsidered the influence of the issue of Japanese immigration on the formation of regional identity of the province of British Columbia and the Dominion of Canada; 3)reconsidered the course of the negotiations in regard to the dipatch of Canadian special envoy Rodolphe Lemieux to Japan and the role of this mission; 4)reconsidered the course of negotiations between Japan, Canada, Great Britain and the United States concerning the issued of Japanese immigration in 1907-8.

研究分野：人文学

キーワード：日本人移民 日英加関係史 日米関係史

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者サヴェリエフ・イゴリは、研究報告書『19世紀末～20世紀初頭の合衆国と極東ロシアにおける日本人中国人排斥運動の比較研究』、学術図書『移民と国家 極東ロシアにおける中国人、朝鮮人、日本人移民』（お茶の水書房、2005年）などによって、歴史学的な視点と未発掘資料の利用を通して、東北アジアのディアスポラとしての日本人・中国人移民を研究している。さらに日本においてもカナダにおいても、ブリティッシュ・コロンビア州への日本人移民に関するイギリスの国立公文書館の史料が使われておらず、国家アイデンティティ形成における移民問題が取り上げられることもほとんどなかった。それゆえに、カナダの日本人移民問題の研究は移民研究の新しい側面に光をあてることができると思われる。

## 2. 研究の目的

国内に多様な民族集団を包含するカナダは、19世紀から日本から移民を大量に受け入れていたが、世紀転換期の排斥運動の結果、日本人の入国を厳しく制限した。しかし、多くの日本人移民がカナダに残留し、カナダ西部の開拓、特に鉄道建設、漁業に大きく貢献した。これまでの研究では、日本人移民がホスト社会に適応させ「溶け込ませる」マイノリティとして頻繁に取り扱われたが、イギリスの自治領であったカナダの国家アイデンティティ形成、特に英米日との外交においても、日本人移民問題が大きな役割を果たしたと思われる。本研究は、日本人移民が独自の社会空間を構築し、カナダ西部のモダニティへの移行や国家アイデンティティ形成においてどのような役割を果たしたかを明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、日本、カナダ、アメリカ合衆国、イギリスの4カ国の公文書館において資料収集を進めるものである。具体的には、日本外務省外交史料館、国立国会図書館憲政資料室、イギリス、カナダと米国の国立公文書館、ブリティッシュ・コロンビア州立公文書館などにおいて19世紀末～20世紀前半のカナダ、米国における日本人移民問題に関する史料を調査した。そのうち、初めてブリティッシュ・コロンビア州への日本人移民に関するイギリスの国立公文書館の未発掘史料を利用し、これまで注目されていなかったアメリカ合衆国の公文書館の史料を用いた。

## 4. 研究成果

その調査で収集した史料、特にこれまでに注目されていなかったイギリス側の史料に基づいて、1907-1908年の米国とカナダへの日本人移民の入国制限をめぐる外交危機が日本外交方針及び日英加米関係に与えた影響の再検討を行った。具体的には、1)1907年の日英関係の変容の文脈でブリティッシュ・コロンビアへの日本人移民制限をめぐる外交交渉のそれぞれのアクター（ブリティッシュ・コロンビア州政府、カナダ政府、イギリスの植民地省と外務省、日本政府）の役割を再検討し、2)日本人移民問題のブリティッシュ・コロンビア及び自治領カナダ（Dominion of Canada）の地域アイデンティティ形成への影響を検討し、3)カナダ特使ロドルフ・ルミュー労働大臣の日本への派遣をめぐる日本外務省、カナダ政府とイギリスの植民地省と外務省の交渉過程を問い直し、ルミュー特使の派遣の意義を再検討し、4)1907～1908年の日本人移民制限をめぐる日加英米外交交渉の交渉過

程を再検討し、その交渉の日米関係への影響を問い直した。

その研究成果を国際学術大会及び名古屋大学で開催したシンポジウムにおいて報告した。具体的には、2014年5月29～6月1日、大阪市で開催されたアジアのアジア研究学会年次大会においては、パネル"Opening and Closing Doors: Policies towards Japanese Immigration in Canada, Mexico and Brazil"を組織し、「1907年末～1908年初頭におけるブリティッシュ・コロンビアへの日本人移民の入国制限と日米外交危機」というテーマで研究成果発表を行った。2014年8月27～30日、リュブリャナ市で開催されたヨーロッパ日本研究協会の国際大会において、パネル"Joining the World Powers: Japan in the Times of Building Alliances"を組織し、「ブリティッシュ・コロンビアへの日本人移民と岐路に立つ日英関係、1898～1908年」というテーマで研究成果発表を行った。さらに、所属している名古屋大学大学院国際開発研究科にて、3回にわたって、海外からゲスト・スピーカーを招いて、22・24・26年度に国際シンポジウムを開催した。そのうち、2014年11月22日、名古屋大学において、アピチャイ・シッパー・ジョージタウン大学准教授をゲスト・スピーカーとして招いて、学内外の研究者を招待し、「包摂・排除の歴史と現在 東アジア移民、政策、国境」というテーマで国際シンポジウムを行った。アジアのアジア研究学会年次大会及びヨーロッパ日本研究協会の国際大会において行われた研究成果報告をもとに原稿を執筆し、国際学術大会のパネルの他の3名の参加者と共に、2015年6月に国際学術雑誌『ジャパン・フォーラム』への投稿を行い、査読を経て"Joining the World Powers: Japan in the Times of Building Alliances"という一号の特集として掲載する予定である。

さらに、5年間で収集した史料をもとにカナダへの日本人移民の入国制限をめぐる外交危機が日本外交方針及び日英加米関係に与えた影響について再検討を行う学術図書原稿"The Immigration Crisis of 1907-8 and the Reorientation of Japan's Foreign Policy"をまとめつつあり、英語圏の出版社と出版についての交渉を行い、査読を経て出版する予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 研究代表者

[雑誌論文](計 2 件)

1. Igor Saveliev. A Comparative Study of Japanese Communities in British Columbia and the Priamur Region in the 1870s—1900s," *International Development Forum* (Nagoya University Graduate School of International Development), no. 40, 2011, pp. 79-94.

2. Igor Saveliev. Migration in the context of "center-borderland" dichotomy on the example of Japanese communities in the Priamurie and British Columbia in the 1860s - 1910s, *Russia and the Asia-Pacific Region: Migration Processes and Problems of Inter-ethnic Communication*, Novosibirsk (2016年刊行予定)(ロシア語).

[学会発表](計 7 件)

1. Igor Saveliev, 「19世紀末～20世紀初頭の沿アムール地方とブリティッシュ・コロンビアの地域アイデンティティ形成における日本人移民コミュニティ 比較の視点から」国際ワークショップ「東アジア系移

民コミュニティ 歴史と現在 』国際開発研究科、2010年7月23日。

2. Igor Saveliev, "Japanese Communities in the Formation of Regional Identity in British Columbia and the Priamur Region in the Late-19<sup>th</sup> - Early-20<sup>th</sup> Century: A Comparative Perspective." Paper presented at the Annual Conference of the Association for Asian Studies, Honolulu, April 3, 2011.

3. Igor Saveliev, "Ethnic Diversity Constructs the City: the Chinese, Korean and Japanese Quarters in Making of Vladivostok." Paper presented at the Annual Conference of the Association for Asian Studies, Toronto, March 15, 2012.

4. Igor Saveliev 「多文化都市バンクーバーとウラジオストクの都市空間づくりと東アジア系移民 比較の視点から 』国際シンポジウム「越境空間、多文化空間 東アジア移民の歴史と新しい動向 』国際開発研究科、2013年2月1日。

5. Igor Saveliev, "The Restriction of Japanese Immigration in British Columbia and the Japanese-American Diplomatic Crisis of 1907-08." Paper presented at the Fourth Annual Meeting of the Asian Conference on Asian Studies, Rihga Royal Hotel, Osaka, May 31, 2014.

5. Igor Saveliev, "Japanese Immigration into British Columbia and Anglo-Japanese Relations at a Juncture, 1898-1908." Paper presented at the 14th

International Conference of European Association of Japanese Studies, Ljubljana University, Ljubljana, August 29, 2014.

6. Igor Saveliev, "The Restriction of Japanese Immigration in British Columbia and the relations of Japan with Canada and US, 1907-08," 国際シンポジウム「包摂・排除の歴史と現在 東アジア移民、政策、国境 』国際開発研究科、2014年11月22日。

〔その他〕

国際ワークショップ・シンポジウム開催  
(計3件)

1) 国際ワークショップ「東アジア系移民コミュニティ 歴史と現在 』国際開発研究科、2010年7月23日。

2) 国際シンポジウム「越境空間、多文化空間 東アジア移民の歴史と新しい動向 』国際開発研究科、2013年2月1日。

3) 国際シンポジウム「包摂・排除の歴史と現在 東アジア移民、政策、国境 』国際開発研究科、2014年11月22日。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

Saveliev Igor (SAVELIEV, Igor)

名古屋大学・大学院国際開発研究科・准教授

研究者番号：60313491